

袖山ニューレポート

先日の理事会に帰国したばかりの袖山さんが出席なさいました。簡潔に旅行の報告をしてくださいましたが、あらためてニュースレター用に書いてくださった旅行記を理事の皆さんに読んでいただきます。私たちが行けないような所を数か所も回ってくださっていますので、じっくりと読んでください。ところどころに入っている写真は、600枚という写真の中から選びました。600枚見ていると、ネパールの匂いが感じられてくるものです。



←こんなスタイルで

極西部・中西部の学校卒業生の学校訪問

袖山正彦

さる、平成23年4月1日から15日までネパールの極西部、中西部の4つの小学校の卒業生を通訳のクリシュナさんと尋ねてきました。当初の計画はバイタデ郡1小学校、フムラ郡4小学校の訪問予定でしたがフムラの飛行機の切符がとれず、キャンセル待ちを期待して3日間ネパールガンジの飛行場でねばりましたが、結局だめで、急遽、他の卒業生に連絡して、スルケット郡、サルヤン郡、ジャジャルコット郡の小学校を訪問してきましたので3人の卒業生のJNFEAへのメッセージと併せ日程順位に報告します。

4月3日 ビンドゥ・チャンドさん(2期生) 教師経験2年 バイタデ郡

前日の午後1時、カトマンドゥを飛行機とジープを分に、インドとの国境の街バイタデに到着しました。の中に沢山の電灯のついている村がインド、ぼつんぼパールの村の説明でした。街は標高1500メートルの山つかって作られ山岳都市です。水の確保が重要で女性、の水汲みが日課で、山坂の多い所では大変な重労働で小学校は山の中腹にあり、先生8人、生徒115人の



乗り継ぎ、夜9時30ドライバーから、闇つんと見えるのがネの尾根の地形を上手子供が朝早くから家す。小さな小学校です。



ビンドゥさんのメッセージ

「JNFEAの皆様おげんきですか。私も元気です。今回、JNFEAのメンバーに私の学校を案内し、先生と生徒を紹介しました。私は学校で楽しく教えています。教えることは本当に楽しいことと感じています。バイタデから生徒がさくら寮に申し込みましたら、よろしくお願いいたします。」

朝の朝礼で私たちJNFEAが紹介され、私は3月に日本で発生した、東北・関東大震災の様子を5枚の写真のパネルを使って説明しました。海を知らない生徒でも、津波の写真を見て、その被害の大きさに驚いていました。ビンドゥ先生の英語の授業を見学してきました。先生の指示にしたがって全員で、大きな声ではっきり答えていました。授業終了後、DVDプレーヤーで英語の歌を聞かせたら、他のクラスの生徒の入ってきて食い入るように見ていました。ビンドゥさんには結婚して2歳のかわいい男の子がいました。



4月5日 カリカ・カートリさん（3期生） 教師経験1年 スルケット郡

フムラ郡に行く飛行機待ちの時間を利用して、急遽、カリカさんの学校を訪ねることにしました。ネパールガンジーからバスで4時間半掛かりました。スルケットの町は海拔670メートルの大きな盆地で、北から南に緩やか坂の街で、オートバイがタクシー替わりです。学校は小学校から大学までの大規模校です。カリカ先生の担当は英語でした。最初小学生に、現在は中学生に英語を教えていました。今回は急な訪問でしたので小学生の公開授業をしてくれました。優秀なカリカさんの授業は発音も綺麗で、生徒をあきさせない工夫していました。生徒を指名して、2人で英会話の挨拶の練習や、英語の歌を皆で大きな声で歌えました。現在、朝、授業前に自分の学校の大学に学んでいました。大変充実した毎日であると話していました。

カリカさんのメッセージ

「山下先生、JNFEAの皆様、さくら寮、その後3年間の支援に感謝申し上げます。いい先生を育てるJNFEAの目標に応えるため頑張っています。よい先生になってよい生徒を育てたいと思っています。先生になって、教えることがこんなことかと分かってきました。分からない時は他の先生から支援してもらっています。初め生徒は英語がとても弱かったが、一生懸命教えたら、今は読み書きも上手になり努力が報われたと思いました。」

4月9日 コウシラ・ブッタトッキさん（3期生） 教師経験1年 サルヤン郡

今回、一番の思い出深い学校訪問でした。まず、ダン郡からサルヤン郡までバスで11時間かかります。朝5時30分のバスに乗らないとその日の内に村に到着しません。8日朝5時にバス停にいったら、ダン郡は交通ストで1日一切の車やバイクは走りませんでした。今日中につかないと、後のジャジャルコットまで行けなくなるため、一途の望みに賭け、サルヤン行きのバスを求めダン郡の村はずれまで歩き、もぐりのバスとジープの荷台乗せてもらい砂埃と寒さに耐えながら、翌朝の午前2時にコウシラ先生のスイコット村に到着、運転手宅に3時間仮眠して、学校まで1時間とのことなので、朝6時に出発、途中コウシラさんが迎に来てくれました。学校はカリ川沿いの河岸段丘の岡の上にあり、1年生から6年生まで約120人、先生6人の小学校でした。今年7,8年生の校舎を作る予定で建材が校庭の隅にありました。コウシラさんの英語の授業を見学しました。頭文字が「A」や「C」で始まる単語を生徒に質問しながらの授業でした。授業終了後、校庭で日本から待っていったソフトバレーボールでバレーボールやドッチボールをして遊びました。ドッチボール遊びは初めての遊びで教えたらすぐに覚えて皆で遊びました。教師が生徒と一緒に遊ぶことはないそうです。

コウシラさんのメッセージ

ナマステー 私は自分の村に帰って先生をやっています。さくら寮でよい教育をしてもらい本当に自分の村で先



生になれたことを嬉しく思っています。いろいろな NPO や団体がありますが、JNFEA のようなよい教育をして、遠い所の生徒を自分の村に帰って先生になるチャンス与えてくれる団体は少ないです。はじめ、先生になって迷いや何を教えたらいいか不安もありましたが、生徒と向き合い一つ一つ問題を解決してきました。3 年生でも 1 年生の内容が分からない勉強の弱い子供が沢山いました。分からない子供たちをグループ分けをして授業の始まる前、昼休み、放課後に基本的なことを教えと所、遅れていた生徒も勉強が楽しくなり喜んで学校に来るようになりました。」 →



サビトリ・BC (3 期生) 教師経験 1 年 ジャジャルコット郡

コウシラさんの村の前の川を渡し舟で渡り、約 2 時間でジャジャルコットの街に着きました。ジャジャルコットの街は標高 1100 メートルの急な狭い尾根の地形を利用して建てられた町並みで、水の確保が重要な問題でした。頂上に旧王宮と軍隊の陣営がありました。車の通る道以外は全部徒歩です。4 日遅れの新聞が届いていました。ジャジャルコットの小学校の校長先生宅に伺い訪問の趣旨を伝え、小学校に案内してもらいました。生徒数 120 人先生 6 人です。校舎は古く、傾斜地に建てられているため、校庭は 5 坪ほどでした。中学からが大学までは別の所にありましたサビトリさんは学校が春休みで、学校から 2 日間の自宅に帰って留守のため、授業を見ることは出来ませんでした。校長先生の話では担当教科は英語と算数を教え、去年は病気で 1 日休んだ他は毎日授業を続けたそうです。現在は毎朝大学に通ってから、小学校で授業をしています。帰りのバスでサビトリさんの大学の同級生に会い、印象を尋ねたところとてもまじめな学生だそうです。翌朝、校長先生にサビトリさんの手紙を託し、砂塵の舞うジャジャルコットの街を後にしました。



今回の日本の地震のニュースはほとんどの人は知りませんでした。日本・JNFEA の皆様にポカラのバリジュ一学長、さくら寮生から災害のお見舞いと復興の励ましの言葉をいただきました。

写真で語る道中記

なが〜い道中 11 時間車に

この川を渡って



バッティで食事





交通手段は バス トラック
バイクも リキシャも



ロバも



フィーダーホステルを訪問 J N F E の取り組みを説明」

袖山さんは外交官



